

参考地図VI 近世藩領図 (1664年・寛文4年)

Introductory Map VI The boundaries of the feudal domains during the Edo period (1664)

この地図は、江戸時代の大名家領の全国的展開を概観するために作った。近世地図に現れる諸名領の地理的分布との対比は、今後の課題と同一。

封建制度の同一名領を組織的に受けつづけるのではなく、江戸時代を通じて、新封・加封・加封・減封などが絶えず起こっていることは、よく知られている。別に、分家への分家などもある。この地図は、幕府御寄附領の「寛文御寄附」(1664年〔寛文4年〕)を中心資料として作成したものであるから、江戸時代についても、その前期の所領状況の概観を示すに過ぎない。もっとも、地図で所領の輪郭線を表示してある領の輪郭については、寛文以降幕末まで、その右高は変化のなかったものであるから、その輪郭は相当重要視しているものと考えられる。

この地図で所領を示したものは、右高に依り、1664年当時4.3万石以上の所領に限られる。「寛文御寄附」には3万石が載せられているから、省略したものが多し。ただし、省略した4万石以下の所領は、地所面積の使い分けが多く、作図の困難さがあり、また、日本近世史の展開のスケールの近世史的参考としては、かならずしも重要ではないと考えられる。また、小領の所領は、その大部分が近畿・関東を主体とするいわゆる幕代大名のものであって、その多くは千石を以てしている。この地図での無記入の地域は、それらの小領としての所領(合計240万石余)のほか、天領(約2万石余)、旗本・公家領(合計30.8万石余)、寺社領(合計28.3万石余)などということになる。

この地図に示した所領にも、例外のあるものがあるが、色わけと番号(右欄参照)で、その所領がわかるようになっている。地図に示した所領については、各藩都を○印で示した。別に、江戸・京都・大坂を○で、1664年当時の時点で5万石以上の藩都となった都市を○の裏の十字に交差の点とし、13の藩都を○で示した。これらの都市は、近世を通じてある期間、京都加封の中心として機能したと考えられる。

「寛文御寄附」を中心とした大名所領地図

としては、すでに戸田伊八氏作成のものがあり、東京大学史料編纂所におきめられている。一般には、西岡光之助・原部之助監修「日本歴史地図」(1964年刊・全国教育図書販売)によって、その概要を見ることのできる。しかし今回は、原則として、原資料である「寛文御寄附」によって新しく作成することとした。その理由は、日本近世史の調査地所と所領資料の関係をできるだけ明確にし、とりとけからであった。作図作業は、「日本歴史地図」の解説でもわかるように、複製を原とした。所領図に示された地名を現代の地図上に重ねたものであるが、村名(「庄名」)の変更が非常に多く、決定しにくい場合が少なくないからである。境界の確定については、たしかに異議を申し立てる余地が多いと思われ、しかし、鳥籠の概要図としては、ほぼ問題のないものが多いのであったと確認する。「日本歴史地図」掲載の図の誤りを訂正した箇所もある。「寛文御寄附」を再掲せず「大名家領図」などを利用した作図は、次の機会ということになる。

「寛文御寄附」が示す当時の領土を載せているわけは、ことごとく「三家おとし」に上村家・平朝高伊達家などが載っていない、載っていても記述にない場合もあること(たとえば津藤家・彦根伊保家・岡山池田家など)から、別資料を借りなければならぬという問題もあった。一部、東京大学史料編纂所の保田清三氏(山形二氏の御所長)によつて、戸田氏宗の地図を参照したことによる。

地図作成については、荒玉幸次氏の御所目録によって白本光正氏の指導をうけ、実所の作図作業は、もっぱら研究補助員白沢友成氏が担当した。原図の下図としては、明治期の複製図5万分の1図を基本とし、明治・大正期の5万分の1地図を参照した。その複製については、31高山前田 64 都山本 25.0 97 延岡 有馬 5.0 32 富山前田 10.0 65 和歌山 54.0 98 松野伊東 5.0 33 全沢前田 322.5 66 鳥取 池田 32.0 99 鹿児島 島津 60.6

1664年(寛文4年)当時4.3万石以上の大名の所領
番号・藩都・領土・右高(万石単位)一覧表

番号	藩都	領土	右高	番号	藩都	領土	右高	番号	藩都	領土	右高
01	弘前	津軽	4.7	34	大館	前村	7.0	67	松江	松平	18.6
02	盛岡	南部	11.0	35	丸岡	本多	4.3	68	浜州	松平	5.0
03	仙台	伊達	56.0	36	福井	松平	52.5	69	津和野	亀井	4.3
04	秋田	伊達	20.6	37	大野	松平	5.0	70	津山	森	18.7
05	新庄	戸沢	6.8	38	小浜	清経	12.4	71	高松	本多	4.6
06	鶴岡	酒井	14.0	39	代官	高利	10.0	72	岡山	池田	31.5
07	白河	松平	15.0	40	上野	松平	6.0	73	三木	浅野	5.0
08	米沢	上杉	30.0	41	松本	本野	7.0	74	岡山	本野	31.1
09	中村	村高	6.0	42	新田	松平	5.3	75	広島	浅野	27.7
10	二本柳	丹羽	16.1	43	加納	松平	7.0	76	萩	毛利	36.9
11	会津	保科	23.0	44	大川	戸田	30.0	77	徳島	堀尾	25.7
12	二本柳	保科	5.0	45	榑原	本多	5.0	78	松山	寺平	12.0
13	白河	本多	16.0	46	名古屋	松平	62.0	79	丸亀	松平	6.2
14	榑原	内藤	5.0	47	岡崎	本多	5.0	80	松山	寺平	15.0
15	平	内藤	7.0	48	尾崎	松平	11.0	81	大洲	加藤	6.0
16	寒川	寺上	5.0	49	亀山	石川	5.0	82	宇和島	伊達	7.0
17	水戸	池田	28.5	50	津	富永	32.4	83	高知	大内	20.3
18	富岡	上井	10.0	51	彦根	伊保	30.0	84	小倉	小笠原	15.0
19	宇都宮	奥平	11.0	52	榑原	本多	7.0	85	福岡	黒田	43.3
20	前橋	酒井	13.0	53	宮津	松平	4.8	86	秋田	黒田	5.0
21	高崎	安部	6.0	54	福岡	池田	7.6	87	長門	有馬	21.0
22	忍	河部	8.0	55	淀	本多	7.4	88	岡山	池田	11.0
23	管	梶	11.5	56	大府	青井	5.0	89	香津	大久保	8.3
24	川越	松平	7.5	57	彦根	岡部	5.3	90	佐賀	鍋島	35.7
25	岡崎	松平	4.5	58	赤石	小田	5.0	91	福岡	宗	18.0
26	住吉	松平	6.0	59	岡山	松平	5.0	92	戸田	池田	6.2
27	小倉	松平	9.5	60	徳島	松平	25.0	93	熊本	細川	54.0
28	村上	松平	15.0	61	志磨	浅野	5.4	94	津	小笠原	8.0
29	新見	松平	5.0	62	尾崎	青井	4.8	95	臼杵	鍋島	5.0
30	長岡	松平	7.4	63	尾崎	松平	6.5	96	竹田	中川	7.0
31	高山	前田	26.0	64	都山	本多	25.0	97	延岡	有馬	5.0
32	富山	前田	10.0	65	和歌山	池田	54.0	98	松野	伊東	5.0
33	全沢	前田	322.5	66	鳥取	池田	32.0	99	鹿児島	島津	60.6

注：藩都名については、当時のものでなく、現在のもので示した場合がある。